

# 磐城時報

日刊 第七十  
編輯人 岡田弘成  
印刷所 磐城印刷所  
電話 二五五  
發行所 磐城印刷所  
電話 二五五  
廣告料 一行十文字 一月金五十圓  
電話 二五五  
電話 二五五  
電話 二五五

## 小名濱港埋没の 浚渫方法改善

今後三ヶ月間で完全になる

小名濱港の漁業組合前岸壁附近に對し優に二倍の能率有するも、近は昨年八月八日の大時化にて、積砂より小名濱まで機械の運搬約千二百立方坪の土砂が堆積し、往復八千圓の巨費を要するの、爾來于潮時にあつては附近一帶で實行上些か困難なる事情あり、に砂洲あらはれ満潮時において且從來の機を以てするも土砂のさへ向は且水深四五尺に過ぎず、運搬にして敏速を期する事を得り、従つて船の出入容易ならざる、能率の増進蓋し至難でない、建設敷地九千坪の地均し工事中、たぬ漁獲物の陸揚その他につき、いふ見込の下に從來の運搬方法であつたが、同工事もいよ、不使少からざるものあるより、改善を加へ人力に代ふるに發來る二十日頃には完成する事に、筋においては漁業組合前にク、動機船を以てした、に港外土捨なるが完成と同時に約十萬圓を、リストマン浚渫機を備へ四隻の、場との往復を簡便敏速ならしむ、以て工場並に本家の建設に着手、土船を使用し浚渫土砂を港外燈、に止まらず浚渫機の使用に開する豫定で竣工は三月中旬の見、臺前の海面へ運搬投棄しつ、あ、際ながらしめて以て所期の浚渫、込であり平町の工業地としての、つたが運搬作業はことごとく人、を行ふ事になつたので今後この、第一歩も茲に漸く踏出される事、夫の力により別に機械力によら、方針により一日平均十立方坪宛となつた。

## 飽くまで堅實な 營業方針で進みたい

貸出しには注意する  
三宅 支配人 談

平、常磐兩行の合併は大藏省が針は石城銀行組合の例に倣らつ、既に内認可されて居るので正、て行ふ方針で貸出しは從來の如く、百年清河を俟つに均しき状態な、式合併認可は今月末頃になる、も放漫に流れず充分なる注意を以、の、と見られ同時に常磐銀行側中、で貸出す筈である。右につき三、藤平土木監督所長等によつて計、村梅三郎氏が平支店長に内定し、宅支配人は語る。  
畫せられたがこれに使用せんと、た、正式合併認可後の平支店營、して目論見たるバネット式浚、業方針は利率貸出し共常磐銀行、深機は現在使用しつゝあるクリ、に倣らふと云ふので種々取沙汰、ストマンの一日最大十三立方尺、されて居るが、平支店の營業方

## 磐城製糸 地均工事終る

の土砂を排除する時は現在約  
一千立方坪と概算さるゝ土砂は  
今後三ヶ月有半にして大部の除  
去をなし得るものと観られてゐ  
る。

部事業家に取つては多少不便、の点があるかも知れない、然、し一部事業家に貸し出して一、般預金者に迷惑はかけたくな、い、従つて堅實な營業方針で、進みたいと思ふ。云々

## 新川を改修する

平町地方に年々出水の被害ある、新川の改修工事は愈々本年度か、ら平町の區域を着手する事とな、り三年度分として、  
工費一萬八千三百五十一圓を、以て平町見町より上流四十、間を改修川幅八尺を取扱げ水、面廿三尺兩岸の幅川一尺とし、且川底を二尺三寸掘下げ兩岸、をコンクリートで築堤堤防を、現在より三尺高める筈である、

## 豫算編成難から 縣に指示を仰ぐ

磐城閉鎖の余波をうけた  
石城郡各種団体

石城郡各種団体並に各町村では、回答して來たが、斯くの如き事、明年度豫算を前にして磐城銀行は自治制始まつて以來のこと、公金預金拂戻し不能から何れも、豫算編成難に悩まされてゐる。  
而もこの磐城が何時開業出来る、か全然開業されないものか目下、の處全く不明なので豫算編成に、際し同行の預金を歳入として編、成することも出来ずまた拂戻し、不納貯金として記載することも、勿論出来ぬため愈々豫算編成に、大支障を來しこれがため各町村、では縣當局の指揮を仰ぐ事とな、りこの程伺ひ書を提出した處、縣當局でも事豫算に關する大問、題であるだけ縣の自由にもなら、ず縣當局でも大藏省に伺ひ書を、提出し同省の決裁を得て適當な、に於いて告別式執行儀式により、處置を取り各町村に傳達する旨、大字中田原墓地に埋葬する。

## 誰も引受る人がない 平理髮組合長の職 就任出來ぬ石崎氏

平警察署管内理髮業組合では既、は頭を痛めてゐる。石崎氏が組、報の如く役員改選の結果組合長、に平町石崎幸一氏當選したが、平町關係のみの投票では到底湯、本町野崎氏に打ち勝つ事が出来、ぬので平町の幹部は小川方部、に副組合長を置くといふ交換條、件でその賛成を得石崎氏が當選、した。石崎氏は、往年平署管内、を閉き善後策を協議し石崎幸一、氏の出席を求めて就任を迫つた、たものであるが、かくまで猛烈、に石崎氏が辭退するの、何故、か、一縷めにした組合設置に反對し、平町のみ獨立した組合を作つた、事二ヶ年であつたが、今回其筋、の方針により統一した組合が成、立したが、嘗て反對を唱へた立、場からの組合長に就く事が出、來ぬのは當然過ぎる程當然な事、とされてゐる。而して次点であ、る野崎氏を組合長に推さば平町、及び交換條件で副組合長にな、つた小川方部及び野崎氏に絶体反、對を唱へてゐる小名濱方部の常、業者が猛烈な反對を唱へる事は、明白で之亦容易な問題でなく結、局江名町の管野長十郎氏に懇請、して組合長に就いて貰はうとい、ふ議が起つてゐるが、從來の例、に鑑み、組合長は誠心誠意事に、當つても僅かな欠点を指摘され、て政敵され勝ちであるため管野、氏も之をうけない模様で、結局、組合長は持つて行き處に迷つて、ゐる觀がある。

## 金成通氏の 母堂逝く

石城郡錦村植田水力電気株式會、社社長金成通氏母堂みつ子刀自、は過般來風邪の氣味にて引籠も、り静養中のところ十五日深夜病、勢遂に革まり昨十六日午前三時、半遂に長逝した。刀自は同村黨、家に仕へて内助の功多く性情、に富み四隣の徳望を集めてゐ、たので一般から長逝を惜まれて、行年六十八歳葬儀は二十、日午より二時まで錦村の自宅、で舉行する。

## 炭礦労働者激減

員も激減し現在に於ては常磐大、小全炭礦の従業員總数は男一萬、員の數實に五萬人の多きに達し、て居たが、最近の財界不況並に、銀行界の大不振に遭つて、さし、も賑やかであつた炭界労働賃銀、の高率で羨望されて居た炭界も、出炭、送炭の制限と同時に従業、員一萬二千六百五十名で好況時、代に比し殆んど三分の一の數に、過ぎず炭界の消長を如實に物語、つて居るが、これを大炭礦の従、業員について見れば左の如し。

- ▲磐城炭礦 男四千名、女九百七十名、合計四千九百七十名
- ▲入山炭礦 男千九百名、女三百三十名、計二千二百三十名
- ▲三井 男千八百八十名、女六十名、計二千二百四十名
- ▲古河 男六百七十名、女百三十名、計八百七十名
- ▲小野田 男六百名、女二百七十名、計八百七十名
- ▲小田 男六百三十名、女百六十名、計七百九十名
- ▲福島 男四百五十名、女百二十名、計五百七十名

賀状片々

(四) あきらまじら生 父病んで子等に淋しい三ヶ月...

田人村 渡邊 一角 い、梅を持つて口繪になる田家

綿引 東天紅 育の子へ白髪のみへるのも忘れ

佐川 満壽莊 あさ戸おすのきばに近きむかつ...

冬眠のゆめからさめて不景氣の...

初詣で村社の森に旭があかい...

沖繩から 沖繩西表稲葉炭礦にて...

遙かに新正を賀し貴社の隆盛を...

老生舊臘二十八日出發大阪灣...

八郎爲朝遠征の地と稱する那...

芭蕉樹等數多の熱帯植物繁茂...

知れぬ野花の美しき眼を新に...

なる建築、男女の珍らしき風...

ハガキ集

(投稿歓迎) 星野ゆこの間の真夜中新田...

町のある露地内で、お人柄...

つて、のれんを潜つた紳士が...

ありました、平生物堅いので...

油断が出来ませんでしたね(と風)

いんごんに案内を乞ふので誰...

見ると何のことも、珍らしくも...

ない凍豆腐賣でした、こんな...

鳥御料理 よせなべ 天 井類 仕出しは迅速配達致します

スター好 ナフトル 尺 新柄 モスリン着尺...

平町紺屋町 吉田眼科院 電話六八番

本劑の偉力により 頭腦を明晰にし 社會の落伍者たる勿れ

セメント 壁用材料 コールタール...

三益玉炭のお奨め 無煙無臭デ火付が早く、火持チ良ク...

防寒具の御用意は!!! ト シン パ ビ...

大學脱腸帶 子供さんの脱腸は必ず全治します...

内臓外科専門 藤本 順 整形外科 木村寅次郎...

強アインチゴ 急性淋病、慢性淋病、消渴、膀胱炎等...

一葉印刷所 大衆映畫の製作に貢献する所ありし日活社...